

長崎視察 「唐人屋敷の歴史」

学部ゼミ1期 平林仁志

唐人屋敷とは



- ▶ 江戸時代、鎖国政策をとっていた江戸幕府は、密貿易やキリスト教浸透を防止する目的で、貿易のために来航する中国人（唐人）たちの居留地として、1689（元禄2）年に唐人屋敷を建設
- ▶ 敷地面積は約9,500坪（約3万平方km）、出島の約2.5倍の広さ
- ▶ 唐人屋敷の周囲は練堀や堀などで囲まれ、出入口には大門と二の門が設置され、この二重の門により人の出入りが厳しく制限されていた
- ▶ 二の門より中は、遊女のほかに役人であってもみだりに入ることは許されなかった

唐人屋敷関係年表

- ▶ 1635年 中国貿易を長崎に限る
- ▶ 1689年 唐人屋敷を造成、中国人を収容する
- ▶ 1702年 新地蔵所を造成（現在の中華街）
- ▶ 1784年 唐人屋敷内で火災発生（関帝堂を除く、ほとんどの建物を焼失）
- ▶ 1859年 長崎が開港される（鎖国が廃止される）
- ▶ 1866年 外国人居留地完成（唐人屋敷は指定から外される）
- ▶ 1868年 唐人屋敷解体
- ▶ 1871年 旧唐人屋敷内で火災発生
- ▶ 1945年 原爆の爆風で被災

①土神堂（どじんどう）



- ▶ 土地の神、土神を祀ったお堂
- ▶ 元禄4年（1691）建てられ、その後数度の再建
- ▶ 現在の建物は昭和52年に復元

②天后堂（てんこうどう）



- ▶ 南京地方の人々が航海の安全を祈願し、航海の神「天后聖母」を祀ったのが起源
- ▶ 天后聖母は一般に「媽祖（まそ）」の名前で知られている

③ 観音堂



- ▶ 本堂には、観世音菩薩と関帝が祀られている
※関帝 商売繁盛の神
- ▶ 元文2年（1737）に創設されたと思われる
- ▶ 天明4年（1784）の大火で焼失し、その3年後に再建
- ▶ 現在の建物は、大正6年（1917）に改築されたもの

④福建会館



- ▶ 明治30年（1897）に建てられた
- ▶ 福建会館とは福建省出身の中国人が各地に建てた会館のこと
- ▶ 会館本館（会議所）は原爆により倒壊
- ▶ 現存する天后堂及び正門は市指定文化財に指定されている
- ▶ 天后堂は老朽化に伴い再構築し2018年に完成

孫中山（孫文）銅像



- ▶ 福建会館の敷地内
- ▶ 中国革命の父、国父と呼ばれる

旧唐人屋敷門



- ▶ 唐人屋敷唯一の現存する建造物
- ▶ 昭和35年、興福寺境内の現在地に解体移築復元

十善寺地区のまちづくり

- ▶ 平成5年：「十善寺地区まちづくり協議会」発足
- ▶ 平成8年：「新地・十善寺地区まちづくりマスタープラン」策定
- ▶ 平成10年：「中心市街地活性化基本計画」策定
（新地十善寺地区まちづくり計画（唐人屋敷顕在化））
- ▶ 平成11年：ランタンフェスティバル唐人屋敷会場
- ▶ 平成12年：「唐人屋敷跡の活用に関する提言」
- ▶ 平成14年：「唐人屋敷顕在化事業の推進に関する助言」

⇒唐人屋敷跡は、日本と中国の交流の歴史において大きな意味を持つ

⇒斜面市街地特有の課題も抱えている

⇒観光の拠点整備、住環境の整備など歴史を活かしたまちづくりを推進

唐人屋敷象徴門（誘導門・大門）建設



- ▶ 唐人屋敷跡を象徴する新たな中華門として、「唐人屋敷象徴門（大門）」を建設
- ▶ 広馬場商店街入口の「唐人屋敷象徴門（誘導門）」とともに、新地や湊公園から唐人屋敷跡の存在をアピール



遺構説明板・誘導サイン・案内板の設置

- ▶ 唐人屋敷を訪れた観光客が探索できるように、文化財等の遺構説明板や施設への誘導サイン・案内板を設置



回遊路の整備



- ▶ 土神堂、天后堂、観音堂、福建会館の4つのお堂を結ぶ道に板石舗装をし、往時の唐人屋敷の雰囲気を感じていただけるよう整備

以上